

2014年7月17日

報道関係各位

株式会社ビデックス
代表取締役社長 柳下洋

動画配信サービス「ビデックス JP」では、
お茶の間に、あの懐かしの映画を楽しめる時代に！

<http://www.videx.jp/>

株式会社ビデックス(本社:東京都渋谷区 代表取締役社長:柳下洋 以下 ビデックス)が運営する動画配信サービス「ビデックスJP」では、第21回モスクワ国際映画祭で最優秀作品賞を獲得した『生きたい』(1999)をはじめ、新藤兼人監督の映画の配信を始めました。懐かしの映画をお茶の間でも楽しむことができます。



(C)近代映画協会 (C)近代映画協会 (C)1992(株)近代映画協会

■『生きたい』(1999)

昔の“姨捨て伝説”の再現映像と現代の老人問題を交錯させてユーモラスに描き、“老い”をどう生きるかを問いかけた意欲的な人間ドラマ。

作品ページはこちら⇒

http://www.videx.jp/detail/cinema/v_c_odessaentertainment/cods0030_0001/index.htm



Press Release

■『午後の遺言状』(1995)

老いの生き方を提起して社会現象になった作品。老女優が避暑に訪れた先で過ごすひと夏を描き、生きることの意味を問う人間ドラマ。

作品ページはこちら⇒

http://www.videx.jp/detail/cinema/v_c_odessaentertainment/cods0029_0001/index.htm

■『墨東綺譚』(1992) ※R-18

永井荷風の同名小説をもとに、主人公を荷風自身に置き換えて映画化。赤線の娼婦との淡いロマンスを綴った文芸大作。

作品ページはこちら⇒

http://www.videx.jp/detail/cinema/v_c_odessaentertainment/cods0025_0001/index.htm

他にも、『三文役者』(2000)、『ふくろう』(2004)、『石内尋常高等小学校 花は散れども』(2008)など、新藤兼人監督の作品を配信しています。

新藤兼人 関連作品一覧ページは、こちら⇒

http://www.videx.jp/list/cinema/staff/01/c_shinndoukaneto/index.htm

【株式会社ビデックスについて】

ビデックスは今年で創業10年。私たちは映像の視聴者だけでなく映像の作り手の協力を得て、優れた映像が活発に流通する社会の実現を目指しています。そのための①映像に特化したコンテンツ配信ネットワーク (Contents Delivery Network) 技術、②ユーザビリティを実現するアプリケーション開発技術、③埋もれた映像資産を掘り起こすための映像ストアクラウドサービス技術を構築し、日々これらの技術をブラッシュアップしています。また、自社サービス「ビデックスJP」を運営しており、人気アニメやドキュメンタリー、洋画、邦画など常時3万本の作品を提供しています。

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社ビデックス 広報担当: 森田

〒151-0066 東京都渋谷区西原 3-13-12 HG II

TEL: 03-6715-0330 Fax: 03-5452-2110

E-mail: press@videx.co.jp